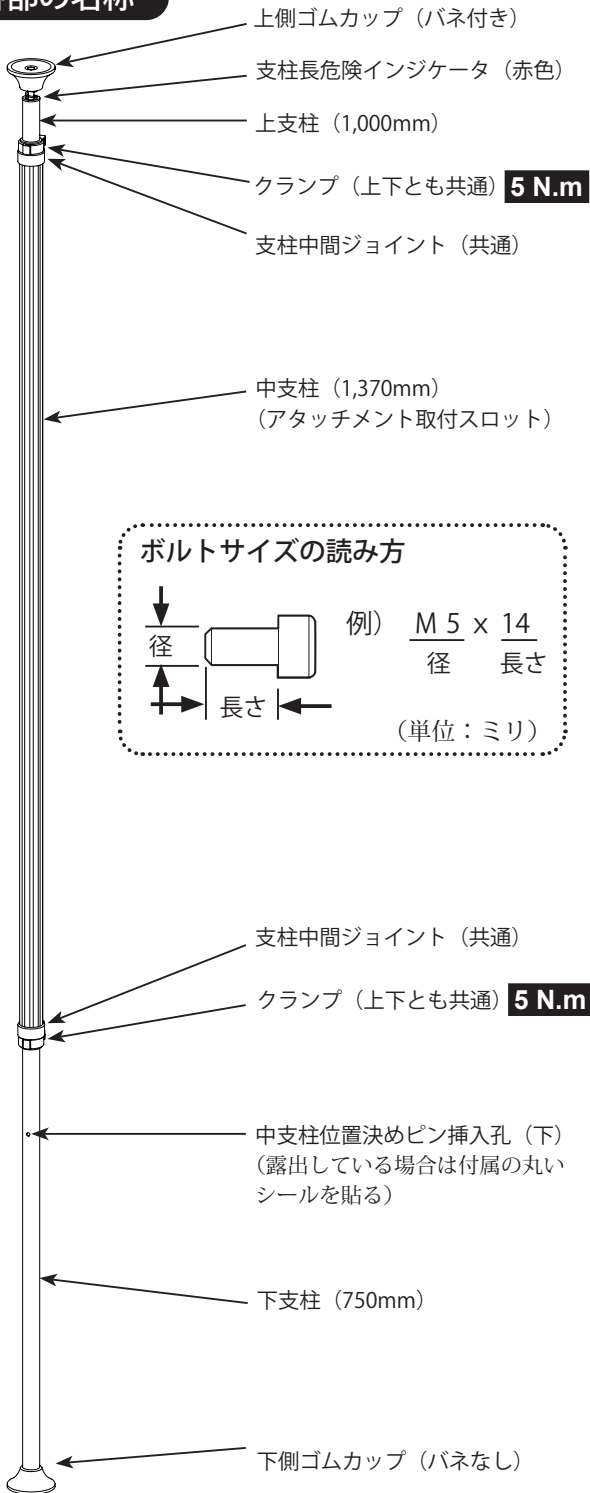


このたびは「リコルベタワー支柱 HT-1000」をお買い求めくださりまして、まことにありがとうございます。  
このタワー式支柱は、床から天井までの高さが2.1～2.8mの場所に簡単に設置できる3分割支柱式の突っ張り式のポールで、これにさまざまなオプションのアタッチメントを組み合わせることでいろいろな目的に合わせた展示スタンドとしてお使いいただけるようになります。  
本商品は支柱のみです。アタッチメントはすべて別売です。ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりと読みになり、各注意事項を十分にご理解いただいた上で、正しく安全にお使いください。

各部の名称

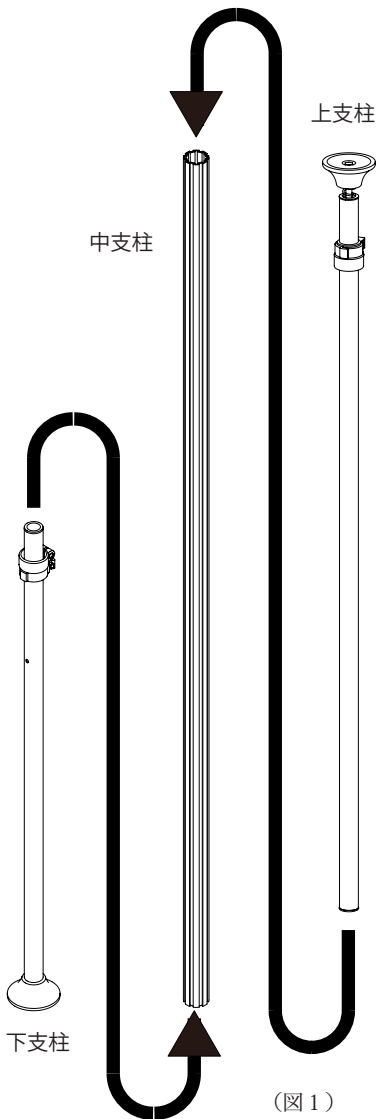


(※ M5 ボルトの締め付けトルクはいずれも **5 N.m** にて)

必ず注意していただきたいこと

- 本商品は上下突っ張り式の支柱のみです。アタッチメントはすべて別売です。必要に応じて別途お求めいただき、支柱に装着してご使用ください。
- タワー式支柱が適さない場所に設置するには、自立式ベース支柱「HS-1000」をかわりにお使いください。
- 上側ゴムカップから赤い支柱長危険インジケータが見えていないかどうかを日常的に確認してください。  
もし赤いインジケータが見えていたとしたら、上側支柱中間ジョイントのクランプを締めるボルトが緩んできているか、あるいは規定トルク (5N.m) で締まっています。そのときはいったん支柱を外し、必要なだけ上支柱を伸ばしたあと、もう一度しっかりとボルトを締めクランプを固定してから再設置してください。そのまま使用していると、支柱の突っ張り力がなくなり、外れて転倒してくる恐れがあります。
- 万一支柱が縮んでしまった際の転倒防止のため、添付の樹脂ストラップを使って、上支柱を天井もしくは壁の内部にある構造材 (天井板や壁板のみは不可) に止めてお使いください。  
ストラップを使用しないまま設置していても万一転倒したとしても、弊社はその損害の責任を負いかねます。
- 1本を単独で、あるいは2本を連結してペアで使います。  
支柱1本の耐荷重制限は、支柱部分での鉛直線方向荷重で15kgまでです。それ以上重いものを搭載しないでください。横向きの荷重はいっさい不可です。また支柱から離れた偏った荷重での搭載はこれよりも少ない荷重でも不安定になりますから、十分に注意を払い、自己責任で行なうようにしてください。
- 支柱は完全に固定されるわけではなく、押されれば揺れます。それにより展示している品物が落下しても弊社ではその責任を負いかねますので、その前提で飾り付けを行なってください。
- 下支柱には位置決め用ピンを挿入する孔が2ヶ所あり、それによって高さは2段階に決められます。最終的な支柱長さの調整は上支柱で行ないます。
- ホビータワーは、上側ゴムカップに内蔵されているバネにより天井側に押し付けられることで突っ張って支えられています。  
天井のゴムカップが当たる箇所は、必ず梁で補強された場所にしてください。梁がなく天井板だけの場所だと、バネの力で天井板を突き破ったりたわませてしまう恐れがあると同時に、十分な力で支柱を支えることができず、使用中に外れて転倒してしまう恐れがあります。
- 上下方向を逆にして使用することはできません。必ずバネが内蔵されている方が上側になるようにして使用してください。  
また支柱を横向きにした突っ張り棒のようにして使用できません。指定された以外の方法では使用しないでください。
- 支柱は必ずどの方向から見ても完全に垂直になるように設置してください。  
天井も床も水平で平行でなければいけません。傾いたまま設置すると十分に保持されなくなり、使用中に外れて転倒してくる恐れがあり危険です。
- ゴムカップの材質は十分に吟味してありますが、床や天井の材質や表面コートの種類によってはゴムカップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など汚損が許されない場合は、ゴムカップとの間に紙を1枚だけ、もしくは木板などを挟んでください。ビニールシートなどでは滑るので使用しないでください。
- ホビータワー自体は構造が1本の支柱のため、装着された枝状のアタッチメントにぶつかったり衣服を引っかけたりすると、支柱を軸にして全体がアタッチメントごと容易に回転してしまいますから、ホビータワーの周囲には壊れやすいものなどを置かないでください。
- 本商品は品質向上のため予告なく仕様変更することがあります。  
商品に関する情報は随時弊社ウェブサイトで公開しています。ご参照ください。

1

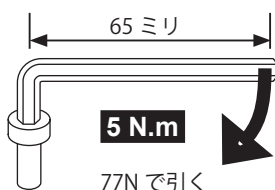


(図1)

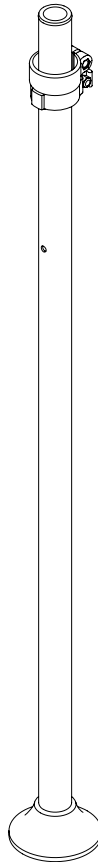
下支柱・中支柱・上支柱はそれぞれ別々に梱包されています。下支柱は下側から、上支柱は上側からそれぞれ中支柱の中に挿入し、1本の支柱を作っていきます。(図1)

**ボルト締め付け推奨トルクの目安**

付属の六角レンチの長さは65ミリなので、5 N.mの締め付けトルクとは、レンチ先端を77N(約7.9kgf)の力で引く程度になります。



2



(図2)

下支柱には2ヶ所に孔があり、それを使って2段階に中支柱の高さを決めることができます。

**<下側の孔>**

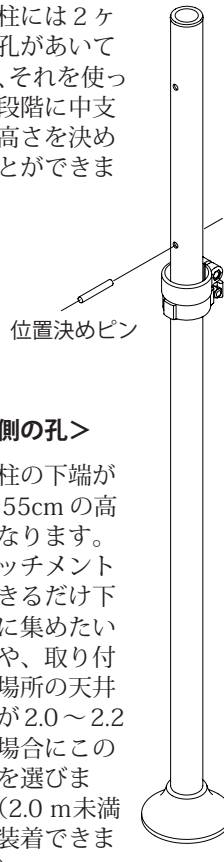
中支柱の下端が床上55cmの高さになります。アタッチメントをできるだけ下の方に集めたい場合や、取り付け場所の天井高さが2.0~2.2mの場合にこの位置を選びます。(2.0m未満には装着できません) この位置では最大2.8mまでの高さの天井に適合します。

**<上側の孔>**

中支柱は15cm上がって、中支柱下端の床からの高さは70cmになります。天井高が2.2m~3.0mの場合に適合します。(2.2~2.8mの範囲ではどちらの孔を使ってもよい)

工場出荷時の初期位置は上側の孔です。(図2)

3



(図3)

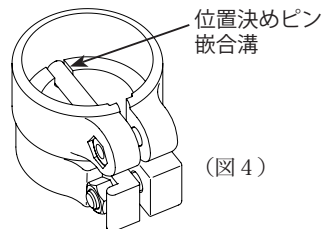
下側の孔を使うには、中支柱位置決めピンを移動させます。

まず下側の中間ジョイントのボルトを2本とも緩め、中間ジョイントを下側の孔よりも低い位置に引き下げておきます。

位置決めピンだけが残りますから、それを抜いて、下側の孔に挿入します。(図3)



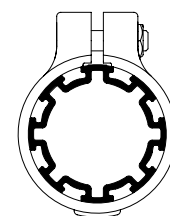
支柱を横にしているとピンは自重で簡単に抜け落ちてしまいます。できるだけ支柱は立てた状態で作業してください。



(図4)

ずらしておいた中間ジョイントを引き上げます。このとき位置決めピンが中間ジョイント内にある溝に正しく嵌合することを確かめてください。(図4)

中間ジョイントのボルトはまだどちらも締めません。



(図7)

4



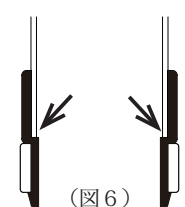
(図5)

中間ジョイントが押されて下がらないように保持しながら、中支柱を中間ジョイントにいっぱい挿入します。(図5)

まず先に樹脂側のボルトを締めて中間ジョイントの位置を決め、続いてクランプ側のボルトを5 N.mで締めて固定します。



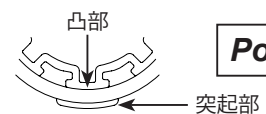
中支柱を挿入していない状態で樹脂側のボルトを締めてしまわないでください。ナットが樹脂穴の奥で固着して取れなくなったり、中間ジョイントが破損したりします。



(図6)

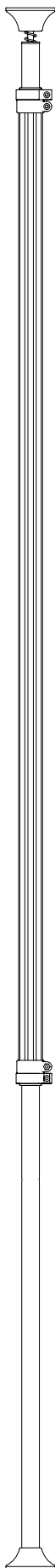
中支柱は中間ジョイントにいっぱい突き当たるまで挿入します。浮いたままだと、設置後に隙間が押されて埋まることで支柱が急に縮み、外れて転倒してしまう原因となるためです。

**Point**



中間ジョイントの突起部と中支柱のアタッチメント装着溝の凸面とを位置合わせしておく、アタッチメントを左右対称に装着できるようになります。(図7)

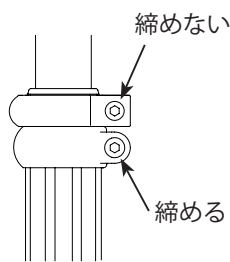
5



中支柱の上から上支柱を挿入します。

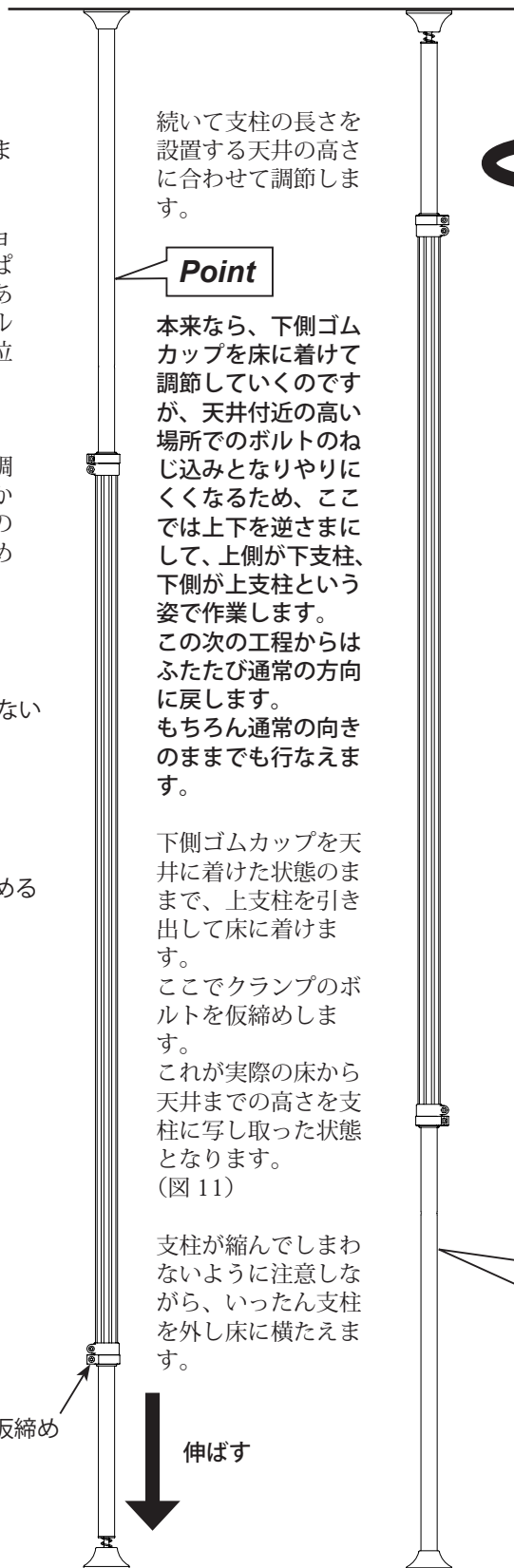
中支柱を中間ジョイントの奥いっぱいまで挿入したあと、樹脂側のボルトだけを締めて位置決めします。(図8)

続いて支柱長の調整を行ないますから、クランプ側のボルトはまだ締めません。(図9)



(図9)

6



続いて支柱の長さを設置する天井の高さに合わせて調節します。

**Point**

本来なら、下側ゴムカップを床に着けて調節していくのですが、天井付近の高い場所でのボルトのねじ込みとなりやりにくくなるため、ここでは上下を逆さまにして、上側が下支柱、下側が上支柱という姿で作業します。この次の工程からはふたたび通常の方に戻します。もちろん通常の向きのままでも行なえます。

下側ゴムカップを天井に着けた状態のまま、上支柱を引き出して床に着けます。ここでクランプのボルトを仮締めします。これが実際の床から天井までの高さを支柱に写し取った状態となります。(図11)

支柱が縮んでしまわないように注意しながら、いったん支柱を外し床に横たえます。

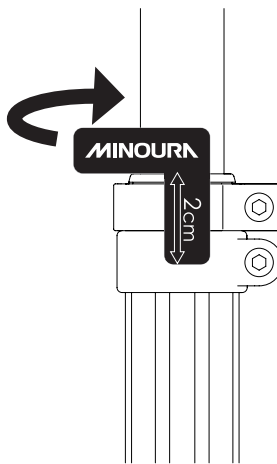
仮締め

伸ばす

(図10)

(図11)

7



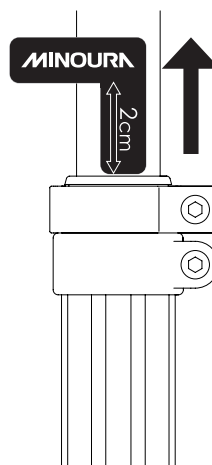
(図12)

このままでは上側ゴムカップに内蔵されているバネを利用して突っ張らせることができないため、上支柱をあと2cm伸ばします。

クランプのボルトを緩め、上支柱をあと2cmだけ引き出して、今度はボルトをしっかりと5N.mで締めます。

**ヒント**

この「2cm伸ばす」という寸法がよくわからない人向けに、そのためのガイドとしてL字型のシールを用意しています。



(図13)

シールを逆L字型にして、ミノウラロゴのある水平部を支柱中間ジョイントの上端に合わせて貼ります。(図12) 縦部分はまだ浮かせたままにして、他のところに貼り付かないように注意してください。

中間ジョイントの上側ボルトを緩めて上支柱を少し伸ばし、シールの縦部分を上支柱に貼ります。このシールの下端が先ほどの位置から2cm伸ばした長さとなりますから、シールの端が中間ジョイントの上端に合うよう上支柱の突き出しを少し戻して調整し、クランプ側のボルトを5N.mでしっかりと締めます。(図13)

上側の位置決めピン孔を使うときだけ、付属の丸シールで孔を塞ぎます。

(図8)

8

天井に  
押し上げる



続いて支柱を立てて  
いきます。

上側ゴムカップを天  
井板の裏に補強用の  
梁が入っている丈夫  
な場所に当て、その  
まま支柱を押し上げ  
てバネを縮めます。  
(図 14)



天井は板だけでなく必ず  
補強用の梁が入っている  
箇所でご使用ください。  
天井板だけの場所だと、  
バネの力で天井板が破れ  
たり変形してしまい、支  
柱の突っ張りがなくなっ  
て転倒してきてしまう恐  
れがあります。

(図 14)

9

上側ゴムカップを  
天井に押し付けて  
バネを縮ませたま  
まで、

支柱がまっすぐにな  
るまで下部を移動させ  
(図 15)、

直立したところで  
静かに床に下ろし  
ます。  
(図 16)



(図 15)

10

これで支柱の設置は  
完了です。

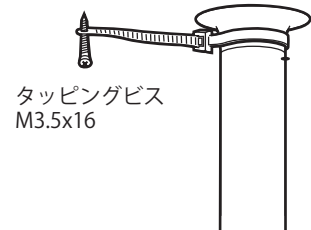
上側ゴムカップから  
赤い危険インジケー  
タが見えてしまっ  
ていないかを必ず確認  
してください。  
もし見えている場合  
は支柱の長さ調整が  
不完全です。いった  
ん支柱を外し、もう  
一度正しい手順で調  
整し直して設置して  
ください。



(図 16)

11

最後に、万一使用中に突っ張りが緩んで外れそうになっても転倒してこないよう、付属の転倒防止ストラップを上支柱のなるべく上の方に巻き付け、その端を天井あるいは壁の構造材が入っている丈夫な箇所にねじ止めしてください。



タッピングビス  
M3.5x16

(図 17)

## 必ず守っていただきたいこと



天井に突っ張って押し付けられている上側ゴムカップから、赤い危険インジケータが見えていないことを必ず確認してください。(図 18)

もし見えている場合は、それは支柱が適正な長さよりも縮んで短くなってしまっていることを意味します。

いったん支柱を取り外し、危険インジケータが隠れるように支柱の長さを調整してから、もう一度手順にしたがって設置し直してください。

もし正しく設置していたとしてもまだ支柱が縮んでしまう場合は、部品交換の手配をしますので、すみやかに展示品を下ろし支柱を取り外してから、購入された販売店または弊社までご連絡ください。  
緩んだままでの継続使用はたいへん危険です。絶対におやめください。



(図 18)



支柱は前後左右どこから見ても垂直になるようにして立ててください。傾いていると荷重がかかったときに転倒しやすくなってしまいます。

また支柱には絶対に横向きの力は加えないでください。変形してしまいます。



商品に添付の樹脂ストラップは必ず使用してください。

樹脂ストラップを使用しないことによる転倒事故とその結果の責任は、弊社ではいっさい負いません。天井や壁の材質などの理由により樹脂ストラップが使えない場合は、本商品の使用はご自身のリスクとなります。

ビスは必ずしっかりとねじ止めできる構造材にねじ込んでください。石膏ボードなどの天井板や薄い壁板だけにねじ込んでしまうとすぐに抜けてしまうため不適切です。

## 品質保証期間

本商品の品質保証期間は、お買い上げ日より起算して**1年**間です。

保証を受ける場合は、この期間内であることの証明である販売店発行のレシートや納品書などご購入日がわかる書類を添えてお申し出ください。

ただし自然摩耗や経年劣化、弊社が許可していない改造や分解、弊社が指定していない誤った使い方に起因するものなどは保証の対象外となります。

詳しくは添付の「製品保証規定」カードをご一読ください。また最新情報についてはメーカーウェブサイト (www.minoura.jp) を適宜参照するようにしてください。

## お問い合わせ先

株式会社 箕浦 ホームソリューション事業部

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505

Mail : info@licolbe.com

Web : www.licolbe.com

日本製

# MINOURA